

**令和2年度助成
学術賞を決定**

矢崎科学技術振興記念財団

矢崎科学技術振興記念財団
（細川興一理事長）

は、令和2年度の「研究助成金」受領者16人・「矢崎学術賞」受賞者2人を決定した。

同財団の「研究助成」は、「新材料」「エネルギー」「情報」の各分野を対象領域とした「一般研究助成」・「奨励研究助成」・「特定研究助成」の3つの助成制度。また国際的な学会での研究発表や共同研究をする際の渡航費を支援する「国際交流援助」、過去に同財団

から研究助成を受けた研究者のなかから優れた業績をあげた研究者に与える「矢崎学術賞」がある。

一般研究助成（200万円）には79件が応募家。

このなかから、所裕子筑波大学数理物質系教授「高性能蓄熱酸化チタンの開発」はじめ5件を選

定。奨励研究助成（100万円、原則35歳以下の研究者が対象）には48件が応募し、このなかから鈴木弘朗岡山大学自然科学研究科助教「半導体原子層物質のプラズマを用いた低温・高速合成」はじめ10件が選定された。また、特定研究助成（1000万円、財団が特定

したテーマにふさわしい研究が対象）には9件が応募。本間格東北大学多元物質科学研究所教授「有機電極材料を利用した高エネルギー密度・レアメタルフリー型リチウムイオン電池の開発」が選ばれた。

今年度、国際交流援助は新型コロナウイルス感染症拡大の影響による国際学会の中止・オンライン開催のため該当者なし。矢崎学術賞は応募10件。功労賞は田中雅明東京大学大学院工学系研究科教授と、奨励賞（若手研究者対象）は三輪真嗣東京大学物性研究所量子物質G教授が選ばれた。